

・通信教育課程（学部）

全学共通教育	【学修目標】 世界に貢献する人として必要な基礎的且つ幅広い教養を身に付け、知性、感情、意志、及び心と体のバランスのとれた人格を育み、総合的な思考力と的確な判断力を土台として、自立し、世界の人々と共生できる人、自ら積極的に学び考える、自己教育能力を持つ人となることを学修目標とする。 【教育課程編成・実施方針】 1. 教育課程編成の考え方 全学共通教育は、学修目標を柱とした6つの科目グループ（1）明星大学と多摩、（2）情報の活用とコミュニケーション、（3）科学的思考科目群、（4）現代社会課題解決科目群、（5）人文知探究科目群、（6）心と体の健康をもって編成されている。このカリキュラムは、学生が各分野の知識・技能を得るだけではなく、生きた教養を身に付けることによって「自己教育」に目覚め、健康で心豊かな自立した市民となるよう構成されている。 （1）明星大学と多摩 明星大学と、本学が所在する多摩について理解し、学生生活の基盤を構築させる。 （2）情報の活用とコミュニケーション 情報化社会で要求される基本的なコンピュータ活用能力と情報倫理を学修させるとともに、グローバル化した社会で生きていくための基本ツールである外国語コミュニケーション能力を身に付けさせる。ただし、外国語学習は単なる「語学」ではなく、異文化に接するための「窓」であるというスタンスに立って授業を組み立てる。 （3）科学的思考科目群 自然科学系の科目を通して科学的思考法を身に付けさせるとともに、その在り方と将来について考える姿勢を養う。 （4）現代社会課題解決科目群 社会の仕組みを理解して、現代社会にどのような問題があり、その原因は何かを自ら考え、解決方法を追究する姿勢を養う。 （5）人文知探究科目群 日本を含む世界の歴史や文化を学んでその差異の理由を理解し、多様な文化を寛容に受け入れる姿勢を養うとともに、幅広い教養的知見を生かして問題を把握し、適切に判断する能力を身に付けさせる。 （6）心と体の健康 運動・スポーツの実践を通して、協調することの重要性や運動文化のルール・マナーを理解させるとともに、健康の保持増進に必要な知識を身に付けさせる。 2. 教育方法の考え方 学科科目とは異なり、全学部・学科の学生を対象としている観点から、担当教員の専門研究領域を深く掘り下げる形ではなく、自立した市民として身に付けるべき教養という観点から教育を組み立てる。その際、個々の学生が自分の専攻とは必ずしも直結しない教養科目を学ぶことの意義を理解できるよう、担当教員は常にそれを意識した授業を行う。又、特に少人数の授業においては、学生を積極的に授業に参加させて発信を求め、将来にわたって能動的に自己教育を継続していく姿勢を培う。 3. 評価方法の考え方 科目概要やスクーリングのシラバスに授業の到達目標を明示し、そこへの到達度合いを計測することを基本とするが、中間的到達目標を設定することが可能な科目においては中間テスト等を積極的に行い、学生の発展的変化を成績評価に反映できるようにする。又、ペーパーテストに依拠するのみではなく、スクーリングのシラバスに明記することを前提に、受講態度やプレゼンテーション能力等も評価基準に含めることを認める場合がある。
--------	---

教育学部	1. 教育課程編成の考え方 教育学科では、人材養成の目的及びディプロマ・ポリシーを踏まえ、「小学校教員コース」「教科専門コース（国語・社会・数学・理科・音楽・美術・英語）」「特別支援教員コース」の9コースにおいて、教員免許を取得し、豊かな教養と専門的な知識や実践的指導力を備え教育者・保育者等として活躍できる人間を育成するための教育課程を体系的に編成する。教育課程は、学科科目で構成し、更に学科科目は①必修科目、②選択科目に区分する。 (1) 学科科目 ①必修科目 1・2年生に、教育者・保育者に向けて子どもや教育に関する理論や制度等を学ぶ基礎的な科目を配置する。又、全学年を通して〈手塩にかける教育〉を実現する少人数クラスとして「教育学基礎演習」（2年生）、「教育実践ゼミ」（3・4年生）を配置し、討論や考察、追究等を通して教育に対する深い理解や実践力を身に付けさせる。4年間の学びの集大成として「卒業指定科目の履修」および「卒業資格試験」に合格させるか、もしくは「卒業研究」履修者は「卒業研究」を完成させた後、卒業研究口頭試問による審査を行う。 ②選択科目 幅広い知識や実践的指導力を備えた教育者・保育者を育成できるよう、幼稚園、小学校、中・高等学校の各教科、特別支援学校の一種免許状の取得に必要な教育の基礎的理解に関する科目をはじめ、教科及び教科の指導法に関する科目、道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目、領域及び保育内容の指導法に関する科目等を適切かつ体系的に配置する。 (2) 学部共通科目 教育者・保育者としての必要な知識や実践的指導力とともに、高次の教養を身に付けさせるため、思想、言語、歴史、文化、社会、情報等に関する科目を選択科目として配置する。 2. 教育方法の考え方 学生が教育者・保育者となるために必要な資質・能力を身に付け高めることができるよう、科目の特質を踏まえ、次のような指導方法の工夫に取り組む。 (1) 学生の主体的・対話的・深い学びが成り立つよう、将来の進路との関わりを視野に置きつつ、学修への見通しをもたせたり振り返ったりすること、学修の対象と双方向に関わり追究を深めること、知識を関連付けてより本質的な理解に達すること、問題を発見し解決に取り組むことなどを重視する。 (2) 理論と実践との往還、大学での学修と現実社会との相互のつながりを重視する。 (3) 学生の学修の状況や成績評価を踏まえて、指導の計画や方法の工夫改善に努める。 3. 評価方法の考え方 (1) 科目概要やスクーリングのシラバスにおいて各科目の教育目標を明示するとともに、学生の主体的、計画的な学修に資するよう到達目標／行動目標を併せて示す。 (2) 各科目の教育目標に準拠した成績評価を行う。その際、科目の特質に即して成績評価の規準を事前に明確にする。
------	--